

## 普及活動情勢報告（令和7年12月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### こんにゃくづくりに挑戦 ～高南地区農村女性リーダー地区活動～



11月28日、高南地区農村女性リーダー協議会が四万十町役場十和地域振興局でこんにゃくづくり体験会及び交流会を開催し、農村女性リーダー等8名が参加しました。

農業改良普及所は、日程調整や講師との打合せなどの開催支援と当日の作業補助や交流会の準備等を行いました。

参加者からは、「地元のグループでこんにゃくづくりに挑戦したい」といった声が聞かれました。また、交流会では参加者同士が情報交換を行っていました。

農業改良普及所は今後、BCP勉強会の2月開催を支援します。

### 今年の作を振り返ろう！ ～JA高知県四万十シシトウ研究会出荷検討会～



11月28日、JA高知県四万十シシトウ研究会が出荷反省会を開催し、生産者6名が参加しました。

農業改良普及所は、シシトウの主な病害への対策及び環境測定装置で得られたデータを基にした高温期のかん水管理について情報提供を行いました。

参加者からは「夏場は特にかん水をしっかり行うよう気をつけたい」、「今作は降雨で病害が広がったので来作は防除を頑張りたい」などの声が聞かれました。

農業改良普及所は、今後もJAと連携し、栽培技術指導を通じてシシトウの生産振興に取り組みます。

### 次作の安定出荷に向けて ～JA高知県四万十枝豆研究会出荷反省会～



12月5日、JA高知県四万十枝豆研究会が出荷反省会を開催し、生産者4名が参加しました。

今作は出荷量が前年比113%に増えましたが、高温の影響等で、8月の需要に応えられないなどの問題点が見られました。

そこで、農業改良普及所は、安定出荷に向けた課題と対策（適正な肥培管理、夏季の発芽率の向上等）を説明しました。

生産者からは、「秋冬野菜後の施肥量はどうしたらよいか」「会員を募って出荷量を減らさないようにしよう」などの声がありました。

農業改良普及所は、関係機関と協力して安定出荷ができるように支援していきます。

## イチゴの調子はどう？ ～窪川・大正地区 合同現地検討会～



12月8日、J A高知県四万十イチゴ部会とJ A高知県幡多和支所大正園芸部イチゴ部会が合同で現地検討会を開催し、生産者4名、関係機関5名が参加しました。

会では、窪川地区と大正地区でそれぞれ1ほ場を見学し、意見交換を行いました。

農業改良普及所は、アザミウマ類の防除方法と厳寒期の温度管理について情報提供を行い、参加者から「最近農薬の効果が下がっている。防除の際の参考にしたい」等の声が聞かれました。

農業改良普及所は、今後も関係機関と協力し、産地の収量向上を支援します。

## 次作の課題解決に向けて ～J A高知県四万十夏秋ピーマン生産部会反省会～



12月11日、J A高知県四万十夏秋ピーマン生産部会が出荷反省会を開催し、14名の生産者が参加しました。

今作は、昨年よりも出荷量が増加しましたが、生育不良や赤果が発生しているほ場が散見されました。

農業改良普及所は、調査ほを設置した遮熱シート展張の高温抑制効果と生育・収量への影響について報告を行いました。

生産者から、「遮光率はどの程度が良いか」、「次作では高温対策をしっかり行いたい」といった声があり、高温対策の重要性が再確認されました。

農業改良普及所は、今後も関係機関と協力して、夏秋ピーマンの栽培を支援します。